

到達目標

3

Raynaud 症状を説明し、原因疾患を列挙できる。

Point

- 四肢末梢の細動脈の攣縮や寒冷グロブリンなどにより寒冷刺激で指先の循環障害をきたし、虚血状態に陥ったものを Raynaud 現象という。
- 皮膚はまず蒼白化し、次にチアノーゼで紫色となり、さらに血流が回復してくると赤色を呈する。
- Raynaud 現象は強皮症 (SSc) や混合性結合組織病 (MCTD) でほぼ 100% に認められ、そのほか SLE、多発性筋炎・皮膚筋炎、結節性多発性動脈炎、Sjögren 症候群、悪性関節リウマチ、寒冷グロブリン血症などで認められる。

図 4 Raynaud 現象



寒冷刺激など

的を射た Point 解説とユニークで印象的なイラストの組合せにより、難しい知識の習得が容易になっています。

Raynaud 現象

病態生理

仮説①

- 刺激に対する過剰な交感神経反射

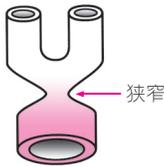
仮説②

- 刺激に対する指趾血管反応の亢進

①虚血期



皮膚蒼白



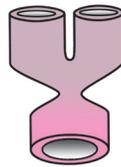
狭窄

- 指趾の動脈が攣縮することによって、その動脈の支配領域の皮膚が蒼白となる。

②チアノーゼ期



チアノーゼ



- 動脈が攣縮し低 O<sub>2</sub>・高 CO<sub>2</sub> となったことにより毛細血管や細静脈が拡張する。そこにたまった血液は酸素の消費によって還元型 Hb が増加するためチアノーゼとなる。

③充血期



反応性充血



- 動脈の攣縮が解除されると、拡張した毛細血管へと血液が流れ込むため皮膚は充血する。

□□ 15



Raynaud 現象を伴うのはどれか。

- A Behçet 病
- B 痛 風
- C 全身性強皮症
- D 変形性骨関節症
- E 側頭動脈炎

質の高いオリジナル新作問題を多数収録。  
必要な知識を最小限に絞り込んだ解説です。  
医師国試の基礎知識の整理にも最適です。

## □ 解法ガイド

Raynaud 現象は四肢末梢の細動脈の攣縮や寒冷グロブリン (cryoglobulin) などにより寒冷刺激で指先の循環障害をきたし、虚血状態に陥る結果、皮膚の色調がまず蒼白化 (pallor) し、次にチアノーゼで紫色となり、さらに血流が回復してくると赤色を呈するものである。

Raynaud 現象は結合組織病で認められることが多く、強皮症 (SSc) や混合性結合組織病 (MCTD) ではほぼ 100% で認められ、そのほか、全身性エリテマトーデス (SLE) では約 30% に、多発性筋炎・皮膚筋炎では 20% に認められる。また、結節性多発性動脈炎や Sjögren 症候群、悪性関節リウマチ、寒冷グロブリン血症 (cryoglobulinemia) などでも生じうる。

Raynaud 現象が特発性に生じるものは Raynaud 病といわれ、振動工具病などが原因となり、基礎疾患を除外することで診断される。

## □ 選択肢考察

- A Behçet 病は非化膿性の慢性炎症性疾患で、口腔内の再発性アフタや結節性紅斑などの皮膚症状、ぶどう膜炎などの眼症状、陰部潰瘍などを主症状とする多臓器障害性の原因不明の難治性疾患である。血管病変としては血管 Behçet 病として主として大血管を障害するが、細動脈は障害しないので Raynaud 症状を伴うことはまれである。(×)
- B 痛風は高尿酸血症をきたすが、細動脈は障害しないので Raynaud 症状を伴うことはない。(×)
- C 全身性強皮症は全身の皮膚や内臓の慢性進行性の炎症や変性を生じるものである。皮膚の硬化は Raynaud 症状と同様の細動脈の攣縮による皮膚の虚血の結果、フィブリノイド変性を生じることによる。(○)
- D 変形性骨関節症は自己免疫疾患ではなく、加齢による変性疾患なので、高  $\gamma$ -グロブリン血症も特徴ではなく、血管の攣縮も認めず Raynaud 症状は認めない。(×)
- E 側頭動脈炎は中～大動脈に病変をきたすものであり、細動脈の攣縮などは認められず、Raynaud 症状を伴うことはない。(×)

解答：C